

長島町(鹿児島県)「鹿児島県最北端、長島町の挑戦！ ～鰯とじゃがいものまちの躍進・離島に架かる橋～」

地域交通×
農林水産業×観光

基本情報

- 人口：9,121人
(令和8年2月末時点)
- 首長：町長 川添 健
- 産業：養殖ブリ生産日本一

活動実績

- 現地訪問：4回
(5/1-5/3、8/7-8/10、10/19-10/22、2/8-2/12)
- オンライン会議：43回
(原則週1回) ※3/25時点

地方創生支援官

- ①平林 孝之 経済産業省 商務・サービスグループ 流通政策課 課長
- ②新保 晴久 会計検査院 第2局防衛検査第1課 副長
- ③高林 恭大 法務省 大臣官房人事課 係長

町の主要課題

○獅子島架橋

有人離島の獅子島について、架橋は50数年来の全町民の悲願である。ポテンシャルを有した一次産業の所得向上や夜間医療体制の確保などが望まれているものの、島内インフラの現状や架橋事業の採算性などが課題となっており、国や県との調整を継続的に実施中。

○観光・産業の活性化について

外資系ホテルの進出(予定)を前提に「サンセットの丘」周辺の観光施設の整備や、「獅子島産業倍増プロジェクト」など農業・漁業の振興を促進するため、具体的な計画や財源確保に取り組んでいるところ。

○若年層の確保について

町内に高校がないため、高校等進学とともに町を離れざるを得ない構造的な現状があり、働き手の確保が課題。慶応大と連携したブリ奨学プログラムを軸にUターン者を主な対象とした地元の仕事の創出に向けて、地元事業者、教育・金融機関等との更なる連携に取り組中。

支援の流れ

○現地訪問・関係者へのヒアリング(4月～)

長島町、鹿児島県庁、東町漁協、地元生産者、獅子島を訪問してヒアリングを実施。現場の生声を収集することで町内の現状に直に触れ、課題を明確化。また、道の駅など特産品を知ることで一次産業の出口を確認。

○課題対応策の提案・検討(5月～)

毎週の会議による伴走支援を通して、各課題への対応策を協働で検討。また、町と霞ヶ関との調整の仲介に入ること、課題を明瞭にし、再度整理し直すことで検討の効率化につなげてきた。一方、限られた予算の中、民間企業との連携が有効であることから、地域創生、EC市場、食イベント、教育DX、地域交通などの観点から鹿児島県内の大学や事業者との連携を模索中。

○広報活動の促進(8月～)

経営者ネットワークや発信力のある複数の中小企業経営者を現地に招聘し、町や特産品の魅力を紹介し、同町のファンになってもらうことで、SNSや口コミ等のリアル情報による長島町の認知度向上を促進中。



養殖鰯の水揚げ量日本一！



左から③高林、副町長、町長、①平林、②新保

成果・展望

○獅子島架橋に係る連絡ネットワーク等の形成

獅子島架橋において、これまでも町として国や県に対して陳情を行うなど精力的に活動していたものの、国等における架橋の機運醸成には至っていなかった。支援官が国交省とのミーティングを調整し、町と同省が直接ミーティングを行える環境を整備するなど、連絡ネットワークの形成に寄与した。また、県に対しては、町の要望活動に随行し、架橋に係る共通認識の形成を促したことによって、「獅子島架橋構想に係る長島町・鹿児島県連絡会」が設置されることとなり、実務者レベルの継続的な協議を進める環境が整えられた。



鹿児島県への要望活動

○鹿児島大学との連携

町内に高校がないため、高校等進学とともに町を離れざるを得ない構造的な現状があり、働き手の確保が課題となっているところ、鹿児島大学法文学部自治体政策論ゼミと連携し、若者の視点から解決策を検討するワークショップを実施した。同大学とは来年度も引き続き連携を深めていく予定であり、長島町の交流人口拡大の観点から、具体的には、鹿大生の実地研修等を町内にある同大学施設で行うことについて協議を進めている。



鹿児島大学でのワークショップの様子

○養殖藻場事業の支援

町の産業活性化を進めるため、海藻養殖事業の拡大に向け、町と養殖藻場事業者との意見交換に参加し、海藻実証実験に係る補助金の利用等について助言を行うなど、海藻実証実験の実現に寄与した。